



一期一会

- 18 -

<http://www.toyonaka-osa.ed.jp/cms/jh15/>

正しい叱られ方

皆さんは今の自分のままで大人になってもいい、と考えていますか。おそらく今のままで社会に出られない、と思っている人がほとんどだろうと思います。

では「今のままの自分」から「社会で通用する自分」に変えていく必要がありますね。人間いっぺんに変わることは難しいので、少しずつ変えていくことになります。それでは、いつ、どんな風に自分を変えていくのか、を考えないといけません。

自分を変えるきっかけを次々と自分で見つけられる人もいます。そのためには自分自身を客観的に見る力が必要です。それはなかなか難しいことかもしれません。でも中学生のうちにはできるようになってほしいことです。

大人から見て「社会では通用しない」行動をしたときには叱られます。「今のままの君で大人になるべきではない」と思われた時に叱られるわけです。そんな時に、ムカついているだけでは、自分は何も変わりません。変わらなければ、また同じ様なことをして叱られます。そしてだんだん自分はダメやと思ったり、もうどうでもいいや、と思ったりして自分で人生をメチャクチャにしていってしまう人もいます。



そうならないために、正しい叱られ方を今日は考えて欲しいと思います。正しい叱られ方は、5段階のステップに分かれます。

(1) 受容

- ・自分でやったことをやった、と認めて叱られることを受け入れる。
- ・やったことを黙っていたり、一部でもごまかしたりしているときは、受容がまだできていない状態。

(2) 反省

- ・何か(誰か)のせいにしない。友だち、先生、保護者、環境のせい、ではなく自分の責任としてどこがどう悪かったのかを考える。

- ・他の人もしているからなどと言いついに逃げない。自分の行いの悪かった点を認め、自分自身の心の奥に新しい善悪の判断基準を作る。

(3) 謝罪

- ・過ちをあやまる。誰に？ → 被害や迷惑をかけた人に。
- ・育ててくれている人や世話になっている人の思いに背いたことに。
- ・世間様に申し訳ないことをした、などと言う人もいます。

(4) 改善

- ・具体的な行動を改める。自分を改善するための目標や行動ルールを自分の中に持つ。
- ・叱られるからしない、でなく自分の中に行動の善し悪しを判断する力をつけ、行動し、それを習慣化する。

(5) 感謝

- ・誰に？ → 過ちを気づかせてくれた人に。自分を変えてくれる機会を作ってくれた人に。自分をよりよく変えてくれようとしている人に。
ここまでできれば、行動だけでなく「生き方」が変わります。

もし何かいけないことをしても、それがバレなければ自分を変えるきっかけはなかなかありません。また知らないうちに誰かを傷つけていてもそれを指摘されなければその人は言動を変えることができません。だから先生たちは君たちに変わるきっかけを与えるために、君たちのことをよく見ているのです。

もしも自分は完璧な人間だから全然変わる必要がないと考えている人がいるなら、まずその考え方から変えなくてははいけません。変わらなくて良い、という考えは自分の成長を止めてしまおうという考えです。それはとても危険です。

人を傷つけたり、元に戻せないような事件にならない限り、皆さんはまだ中学生だから多少失敗をしても叱られるだけで許されることが多いです。でもいつまでもそうではありません。

叱られたとき、それは自分を変えるチャンスです。「カッコ悪い」などと思ってその時変えなければ、変わるチャンスは過ぎ去ってしまいます。

自分の人生だから、そこで変わる変わらないは、結局皆さん自身の問題なのです。自分を変えることができるのは自分しかないのです。

(参考：菊池省三著 学級崩壊立て直し請負人 新潮社)